

請願審査資料

平成26年 請願第16号

急患診療所の小児科廃止の検討中止
及び小児医療体制の拡充について

平成27年1月29日

保健福祉局

I 請願の内容

急患診療所の小児科廃止の検討中止及び小児医療体制の拡充について

(要旨)

誰でも、子どもが生き生きと健やかに成長していくことを望んでいます。市急患診療所3か所での小児科廃止の検討は、市民の期待に背を向ける行為であり、また、公的医療機関の体制崩壊につながります。

廃止の理由を専任医師の確保困難と財政問題にすることには根拠がありません。小児科医の確保が困難というのであれば、こども病院での専任医師の確保が難しいこととなります。また、市民の税金が既に破綻した人工島事業に使われていますが、小児医療に優先的に投じられるべきです。

よって、以下の事項を請願します。

1. 市急患診療所での小児科廃止をしないこと。
2. 人工島事業への投資を見直し、小児科医療の財源を確保すること。
3. 市急患診療所での診療も含めて、本市の小児医療を充実させること。

II 小児救急医療体制の現状について

1 福岡市の小児救急医療体制

一次救急医療	二次救急医療	三次救急医療
◇急患診療センター [夜間・休日] ◇急患診療所 [休日] (東・博多・南・城南・西)	二次診療委託機関 (後方病床) ◇九州大学病院 ◇こども病院 ◇福岡大学病院 ◇浜の町病院 (H26.4月～)	救命救急センター ◇九州大学病院 ◇福岡大学病院

【急患診療センター・急患診療所の内科・小児科の体制】

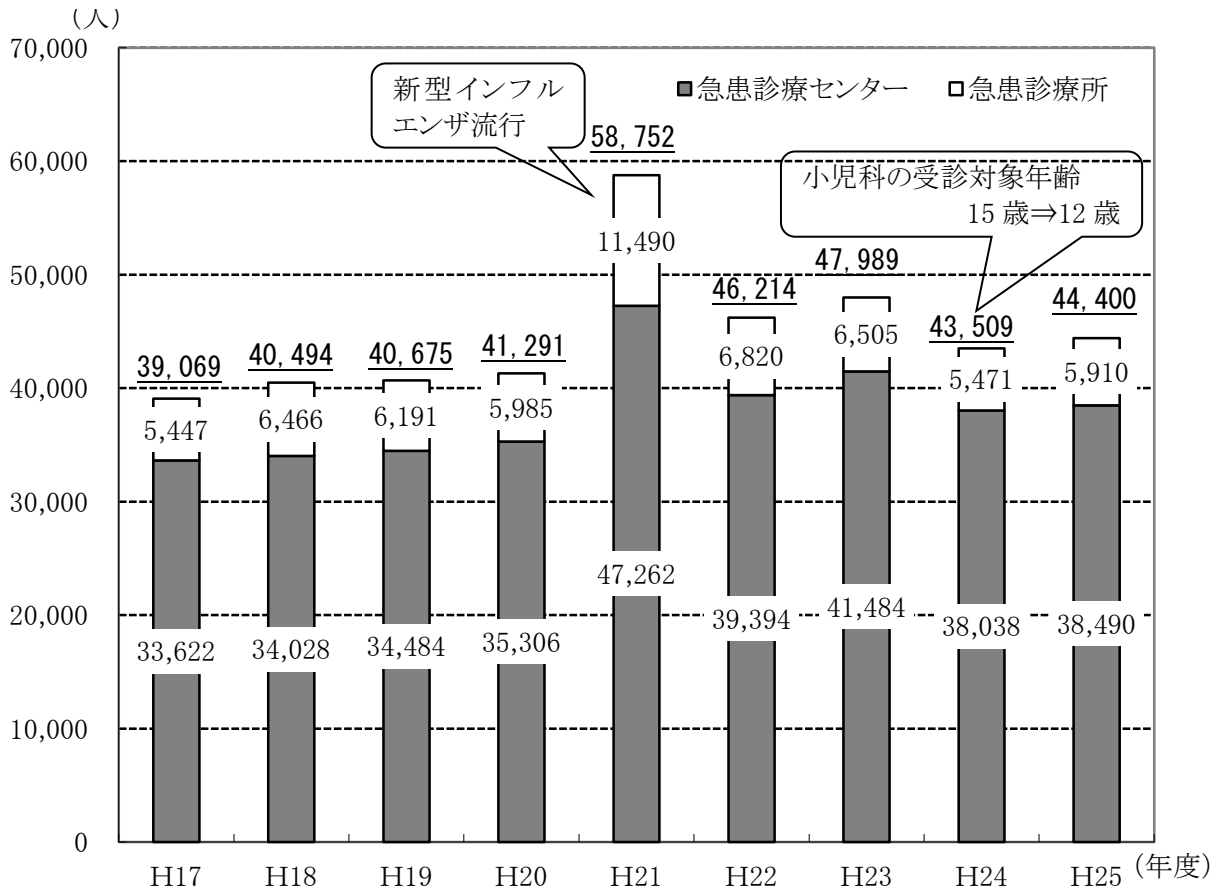
施設名	診療日	診療時間	医師数 ^{※2} ()は小児科	
急患診療センター (内科・小児科)	平日	19:30～翌朝7:00	4 (2)	
	土曜・盆	19:00～翌朝8:00	4 (2)	
	休日	9:00～翌朝8:00	4 (2)	
急患診療所 (内科・小児科)	東	休日 ^{※1}	9:00～17:00	2 ^{※3}
	博多			1 ^{※3}
	南			2 ^{※3}
	城南			1 ^{※3}
	西			1 ^{※3}

※1 年末年始の診療：東・南・西急患診療所のみ（診療時間：9:00～24:00）

※2 ゴールデンウィーク，年末年始等，繁忙期は増員

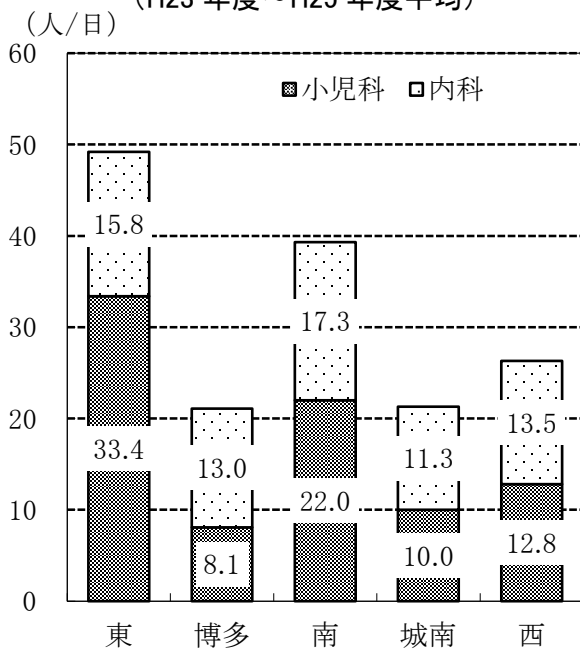
※3 主として，「小児科を併科標榜する内科医」が出務

図表1 急患診療センター小児科, 急患診療所小児科の患者数



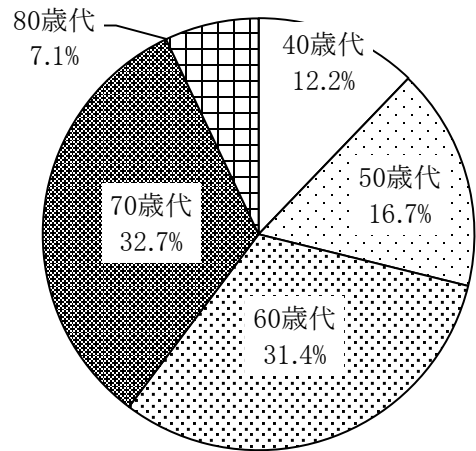
※ H24.1月より, 急患診療センター小児科では受診対象年齢を「15歳まで」から「12歳まで」に変更。
 ※ 下線付きの数字は, 急患診療センターの患者数と急患診療所の患者数の合計。

図表2 急患診療所の1日あたりの患者数 (H23年度~H25年度平均)



【参考】急患診療センターの患者数
 小児科の休日昼間の患者数 134.7人/日

図表3 小児科を併科標榜する内科医 (市内科医会会員) の急患診療所への出動状況 (H24年度)



【参考】小児科を併科標榜する内科医 (市内科医会会員) の状況
 平均年齢: 67.4歳 (H24.12.31 現在)
 人数: H14年度末 97人 → H24年度末 73人

2 小児救急医療体制の主な課題

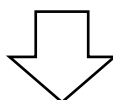
<課題1> 急患診療センター等における小児患者の増加

<課題2> 急患診療所に出務する内科・小児科併診医師の不足

【市医師会の要望（H24.2.2）】

『小児科の臨床経験豊富な内科医の減少や高齢化により、急患診療所への出務医師の確保が困難となっていることから、比較的受診者が少なく、急患診療センターに近い博多・城南・西急患診療所の小児科標榜廃止について検討いただきたい。』

<課題3> 休日の小児科二次病床の不足



課題を解決するため、「福岡市救急医療協議会」の専門部会の「小児科救急医療体制検討会」において協議・検討

(1) 小児科救急医療体制検討会の委員構成

- ◇医療関係者（福岡市医師会，福岡地区小児科医会，福岡地区小児科勤務医会，九州大学病院，福岡大学病院，こども病院）
- ◇学識経験者（九州大学大学院教授）
- ◇行政（保健福祉局，消防局）

(2) 協議経過

- H24.11月 設置，第1回会議（現況の把握，課題の抽出）
- H25.2月 第2回会議（アンケート（医師）の結果報告，課題の整理）
- 4月 第3回会議（アンケート（保護者）の結果報告，対応策の検討）
- 6月 第4回会議（対応策の検討）
- 12月 第5回会議（対応策の検討）
- H26.2月 第6回会議（とりまとめ）
- 4月 とりまとめ内容を福岡市救急医療協議会に報告

3 小児科救急医療体制検討会報告とその対応

<課題1> 急患診療センター等における小児患者の増加

対応策① 急患診療センター小児科の体制増強（看護師，事務職員等の増員）

対応策② 保護者に対して救急医療に関する情報を積極的に提供 ⇒ 実施済み

- ・小児救急医療電話相談（#8000）の広報。
- ・受診率の高い4ヶ月健診や小児科医療機関で小児救急医療のリーフレットを配布。保健指導を開始。
- ・救急医療に関するホームページをスマートフォンからでも見やすいようにリニューアル。

<課題2> 急患診療所に出務する内科・小児科併診医師の不足

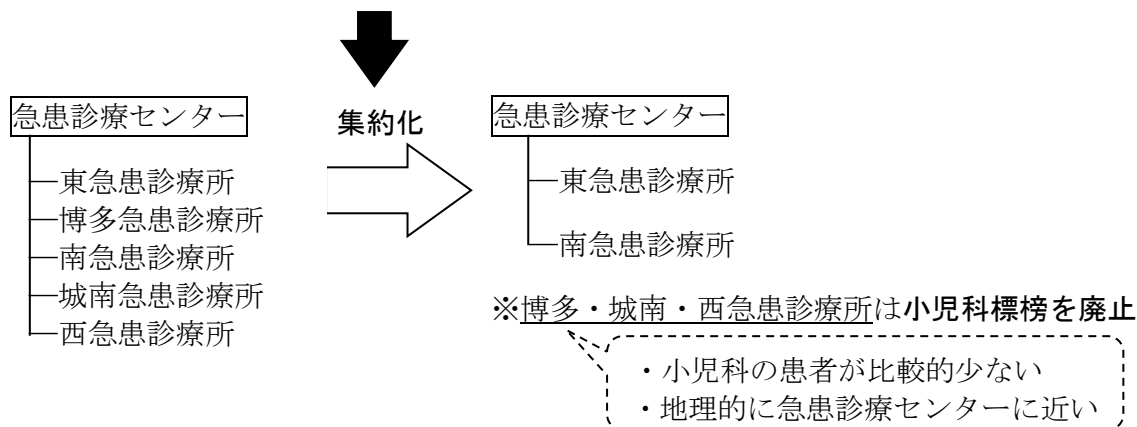
対応策 休日の急患診療体制の集約化（博多・城南・西急患診療所の小児科標榜廃止）

急患診療所に出務する医師の現状・課題

○医科の専門分化が進み、内科・小児科併診医師が高齢化し、数的にも減少。



○急患診療所への出務が大きな負担 ⇒ 急患診療所に出務する医師の確保が困難



<課題3> 休日の小児科二次病床の不足

現状・課題

- 二次病院に急患診療センター等の後方病床を確保
 - ・平日，土曜，盆 2床（福岡大学病院，こども病院・感染症センター）
 - ・休日 3床（福岡大学病院，九州大学病院，こども病院・感染症センター）
- 休日においては確保しているベッド数を上回る二次搬送が常態化

対応策

休日における小児科二次（後方）病床の増設

H26.4月～

3床 ⇒ 4床

浜の町病院を追加

Ⅲ 請願に対する考え方

1 市急患診療所での小児科廃止をしないこと。

(本市の考え方)

急患診療センター等における小児患者の増加に対応するため、保護者への救急医療に関する広報・啓発の充実に取り組むとともに、博多・城南・西急患診療所については、市民生活への影響も考慮し、福岡市医師会にお願いし、小児科の診療を継続しているところである。

ただし、内科・小児科併診医師の高齢化は今後も進み、急患診療所出務医師の確保という課題は残されたままである。市としては、急患診療センター、急患診療所の小児科体制については、医療の質を確保し、子ども達に安全安心な医療を提供する体制を整えるよう、今後も引き続き検討していく。

2 人工島事業への投資を見直し、小児科医療の財源を確保すること。

3 市急患診療所での診療も含めて、本市の小児医療を充実させること。

(本市の考え方)

小児医療については、新しいこども病院において、脳神経外科、皮膚科及び小児歯科を新設するとともに、重症系病床を充実させるなど、小児医療及び周産期医療のさらなる充実を図っていく。

また、入院が必要な患者のスムーズな受け入れを行うため、小児科を有する病院の空床情報などを共有化する福岡市小児医療情報ネットワークシステムを運営するとともに、平成26年4月に休日における急患診療センター及び急患診療所の小児科の後方病床を増設したところである。

今後とも医師会や関係医療機関などと連携を図りながら、小児医療の充実に努めていく。